

令和6年度 第2回 香南市産業振興計画策定委員会 【議事録】

□日時：令和6年11月25日（月） 13:30～16:00

□場所：香南市役所本庁舎3階 303～305会議室

□出席者：○策定委員13名【別府委員（副委員長）、石丸委員、三谷委員、福井委員、岡本委員、松田委員、森委員、明石委員、小笠原委員、森尾委員、松村委員、國常委員、江口委員】

○策定委員代理1名【森様（高知県漁業協同組合 手結支所 主任）】

○市職員14名【濱田市長、北村課長（総務課）、中島課長（情報政策課）、西内課長（企画財政課）、小松課長、佐田補佐、川西係長、久武係長、澤村主事（農林水産課）、萩野課長、府川補佐、中屋係長、藤原係長、平尾主幹（商工観光課）】

○傍聴者1名

□欠席者：○策定委員3名（赤池委員、梶原委員、川崎委員）

◆開催目的

第2期香南市産業振興計画実行4年間の総括および第3期香南市産業振興計画（案）について、計画全体の説明と各分野の担当課長より報告および説明を行い、各分野別部会長をはじめ、有識者や産業関係団体の代表者と分野を超えた横断的な議論を交わす。

◆内 容

- ・ 令和6年10月18日から10月24日までに開催された各分野別部会の協議内容と総括及び第3期計画（案）について各担当課長より報告。
- ・ 各部会長より補足説明等
- ・ 上記のことについての意見交換
- ・ 次期計画（案）について協議

1. 開 会

事務局挨拶

委員2名の変更と代理出席者1名、欠席委員3名について報告。

オンライン（Zoom）でイシン株式会社の明石委員が参加。

本日の会は過半数以上の方の出席により、成立する旨を報告。

（香南市産業振興計画策定委員会設置条例第6条）

委員自己紹介

2. 市長挨拶

（濱田市長）

本日産業振興計画の策定委員会第2回目の開会にあたり、平日の忙しい時間帯にこのように多くの皆様にお集まりいただき感謝申し上げます。

年末を控え、本当に大変お忙しい時期だと思う。

今日議題に上がっている、これまでの4年間の総括、そしてまた新しい産業振興計画に向けて、有意義なご意見等を頂戴できればと思っているので、どうぞよろしくお願い申し上げます。

3. 議 事 （進行：別府副委員長）

① 第2期香南市産業振興計画実行4年間の総括について

【全体の総括】

- ・事務局より、第2期4年間（R2～R5）の総括について、資料Ⅰを用いて説明。

【農業分野・林業分野・水産業分野】

- ・農林水産課 小松課長より、農業分野、林業分野、水産業分野における4年間の総括について、資料Ⅰを用いて説明。

【商業分野・工業分野・観光分野】

- ・商工観光課 萩野課長より、商業分野、工業分野、観光分野における4年間の総括について、資料Ⅰを用いて説明。

（別府副委員長）

4年間の総括について全分野の説明が終わり、意見交換に移りたいと思う。

どの分野、部会からでも構わないので、ご意見、ご質問、またもう少し詳しく聞きたいなどがあればお願いしたい。

結構厳しい。コロナということもあって指標だけを見ると厳しいかなと思っているが。

（松村委員）

農業分野の方で雇用就農を含めないというふうに説明があったかと思うが、これは就農している人の中にはその経営主などが入っていて、雇用されている人は入っていないということか。

（小松課長）

この数値は農業振興センターの数値であり、雇用就農者は入っていない。

（松村委員）

はい。分かりました。

(石丸委員)

先ほど松村さんの方から雇用就農という話が出てきたが、振興センターが把握してない部分もかなりあり、現時点うちの近所にも知らない間に後継者ができていたということがある。

これについては農協並びに振興センターにも申告して、やはり助成金の対象になるのであれば申請をしないといけないけれども、それ以外の方がいきなり身内の方がやってくれるということで入ってきている農家もある。うちの近所でも20代で早くも3人、後継者ができている。すべてニラ農家だが、1人は今年の10月から担い手（育成センター）へ1年間研修に行っている。

1人がもう知らない間に1年くらい前から、弟さんの方がいきなり手伝い始めてそのまま農業をやるような感じになり、こういうのは数字で把握できていない部分もあるし、また20代でレタスとニラをやるということで就農している方もいるので、課長言われたようにやはり40人の目標がそれなりの数字に近寄ってきているのではないかなというふうにも思っている。

また今サポートハウスで研修をされているピーマン農家が来年8月に自立してハウスを建ててやる計画にもなっているし、サポートハウスでも地域おこし協力隊の方がニラを栽培しており、3年後には自立していくと。

山北地区でも地域おこし協力隊3人目が卒業ということで、この方も山北みかんを栽培するということで基盤整備事業を山北の中山間で行っており、そこにみかんを植えて自立していくというふうな計画も出てきているので、少なからず、農業分野の方経費がかかる中でもある程度人数が育ってきているかなと。人数的には少ないが他にも香南市はそれなりにある程度育ってきているのではないかなというふうにも思っている。

(別府副委員長)

40（人）で目標を達成していないけれども、実際からいって、その分野というか、品目によっては担い手もいるんじゃないかという話。

他の分野でも、何かないか。

なければまた次のところとも関係するので次の議題に移ってから、また戻っていただいて構わないので、次の第3期計画の方へ移らせてもらってよいか。

(異議なし)

次ページへ

(別府副委員長)

第3期香南市産業振興計画案について、事務局の方から説明をお願いします。

② 第3期香南市産業振興計画（案）について

【全体の総括】

- ・事務局より、第3期香南市産業振興計画（案）について、資料3を用いて説明。

【農林業分野】

- ・農林水産課 小松課長より、第3期からは農業分野と林業分野を一体化し、農林業分野として取り組みを進めていくこと、第3期の取り組み内容について、資料3を用いて説明。
- ・農業部会 石丸部会長より部会で出た意見や補足の説明。
- ・林業部会 三谷部会長より部会で出た意見や補足の説明。

【水産業分野】

- ・農林水産課 小松課長より、水産業分野における第3期の取り組み内容について、資料3を用いて説明。

(別府副委員長)

農林水どの分野からでも、計画の概要や柱の部分の説明の方でも構わないので、皆さんからご意見、ご質問をいただけたらと思う。

松田部長、ニラの販売強化という話もあったがいかがか。

(松田委員)

ニラについては香美地区管内の中で過去最高5,200トンか5,300トン、一番の出荷になっている。それぞれ出荷量も増えてきた、規模拡大、新規就農についても品目的にはニラなのかなと、今新規があるのは。やはり燃料高騰もあり無加温でいけるというのも影響しているのではないかな。また30代40代、子育て世代ということもあり、やはり収入的にいろいろ教育にお金もかかる年代ということで、やはり規模拡大することによって収入を増やせる可能性がある部分も魅力なのではないかなというところもある。

ただやはりある程度規模拡大すると、雇用しなくてはいけない。その中で最近はずっと外国人の雇用も言っていたが、コロナで外国からの雇用が止まった時もあったが、最近ではインドネシアの方などが多いのかなというところが増えていっているという感じである。

ただ、農協としても、どんどん増えていく中で、機械、作業員等にもやはり限界があり、まだ6,000トンぐらいはうちの努力の中でもいけると思うが、今後どこまで受け込みができるのか、そしてJAとしてはその地区外からの受け込み等の相談があったりもしている中で、受け皿としての役割もしっかり果たさないといけないというところで今考えている。

(別府副委員長)

ありがとうございます。

ぜひ、また希望がある分野なので JA さんの方もよろしくをお願いしたい。

(福井委員)

学校給食米の特別栽培米について、泉佐野さんと協定したというようなニュースを聞いたが、そのことについて少し聞かせてもらえたら。

(小松課長)

昨年度、ご報告した、特別栽培米 5 ヘクタール分を、泉大津市の方に学校給食で使ってもらえる、また妊婦さんのプレゼントに使ってもらえるということで出している。

今後は香南市の給食米にも出すように、来年度から残りの 13.5 ヘクタールを特別栽培米にすべて変更して、来年の 8 月以降は新米が特別栽培米に変わる予定となっている。

(別府副委員長)

今年は順調に育ったということだった。

(小松課長)

特別栽培米なので、少し収量が減るのではということも思っていたが、結構思ったより取れており、全部で 20 トンを泉大津市の方に出している。反当 8.7 俵ぐらい取れている。結構な量を取っていると思う。

(別府副委員長)

今のところ順調にできたということで、順次来年以降も拡大をしていきたい。

(石丸委員)

先ほど福井さんの方からご質問があったように、農業公社の担当者に聞くと、今年から順調だったので、全面積を特別栽培米に栽培していくという話を聞いている。

ただ少し心配するのが、ちょうど今日市長も来られているので、今年お米が例年以上に単価が良かったということで、来年もこういう傾向が続くであろうということで今、保有米、米の備蓄が非常にないということが一番困られてるのは消費だと思う。

農家は自分で作ったお米を管理しておいて 1 年間消費しているので、価格にはあまり影響はないが、やはり消費者が一番影響すると。特別栽培米についても 8.7 俵ということで 30 キロのお米で 16 袋 17 袋ぐらい、10 アールあたりで採れるようになっている。

そうした中で、その特別栽培米については付加価値がついている。そういった意味で、学校給食に使うにあたって、価格の問題、給食代が高くなるのではとかいう、心配をされますのでそのところを、小松課長でも市長でもかまわないのでどういうふうな体制で給食の対応をしていくのかを。

(濱田市長)

私が考えておる限り、給食費を現状から上げるようなことは現在のところ考えていないので、そこは維持して取り組んでいきたいと考えている。

(石丸委員)

農家から考えると、特別栽培米ということで非常に手間暇かかって栽培している中で、実質経費的なものをたぶん市長は考えていないまま据え置くということだが、農家としては非常に経費がかかっており利益率、公社についても利益率が上がるのかなという心配もある。僕は公社の方の会計の方に携わっていないので、詳しいことは分からないが、そのところの詳しい説明をお願いしたい。市長から課長に振られましたので、特別栽培米の、販売単価は据え置きでいくというけど、経費的には結構かかっている。経費がある程度かかっているのに価格を据え置くとなると、公社自体の利益率がかなり落ちてくるのではないかなという心配も懸念される、そのところを。

(小松課長)

経費は逆に下がってきますよね。肥料とか農薬を使う量が少なくなる。

(石丸さん)

労力が増えている。

(小松課長)

手数料とかそういったものに対して、草刈の回数が多くなるとか、そういったことは増えてはきているが、慣行栽培した場合と特別栽培米にした場合とでは経費は下がってきている。

ただその付加価値、儲けた分については、給食の方を上げるのではなくて、公社の積み立ての方におくのか、または補助金の方に何かこう補助金を減らすというか、少なくするためのものにするのかちょっとそこはもう公社の方と話をしないといけないと考えている。

(石丸委員)

両方が潤っていくような計画で、学校へも公社へも負担がかからないような販売の仕方とかそういうご努力のほうをよろしくお願いしたい。

(小松課長)

積み上げ、儲け分をどのように使うかということは、また公社や財政の方と話をしながら進めていきたいと考えている。

(別府副委員長)

他ございますでしょうか。

(國常委員)

質問というか少し疑問だが、資料3の8ページのところの農業など担い手不足がとても大変なんだなというのを聞いていて思ったが、数値目標のところで、令和7年8年9年、新規就農者数というのが10、10、10の目標できているが、令和2年から5年の実績で、36人と出ているが、今回の8ページ目の最終目標が30人となっている。

この数字だけ見ると、今回はもう36人でいっているのに、また今回の目標で何か数字が下がってるのが、理由があるのか。

(小松課長)

年数が第2期は5年間でやっており、今度の3期の取り組みは3年間なので、50人と30人、年数が違うので、数が減ってるように見えている。

(國常委員)

もう一つ、目標値がずっと10、10、10だが、目標はずっと変えない、人数を変えないというのは何か理由があるのかお聞きしたい。

(小松課長)

以前、12人から少しずつ増やしていく数値を立てていた中で、石丸部会長の前の部会長と話をした中で、10人以上増やしていくのは実際目標が高すぎて達成しないんじゃないかという意見もあり、一番高い数字としては10人、でもそれ以上低くするのもやはり目標値としておかしいということで、10人ということになっている。

なかなかこう増やしていきたい、確かに増やしてはいきたいがなかなかこの人口減少の中で1次産業を11、12と増やしていくのは厳しいかなということで現状の10人にしている。

(別府副委員長)

担い手の部分で今までの経過でいくと、なかなか増えてきていないのに10人で大丈夫ということかなと思うが、そこはいろんな取り組みでなんとか10人の目標は達成していきたいということ。

(江口委員)

少し県の立場から発言を。

県はすでに第5期の産業振興計画が動いている。

第4期から5期にいくにあたり、キーワードが2つあり、1つは従来通り地産外商を進めていく。ただ、もう1つの柱というのがやはり人口減少社会において、やはり担い手の不足もあるので、県のこの農林水、あと商工が結構色濃く出てるのかなと思うが、もう1つのキーワード、イノベーションというのを打ち出している。日本語に直すと変革という話だそうである。

ただ単に変革をするという部分もあるが、新たな価値を生み出せないかというような話を入れている。そういう中で例えばこの農業において、そういう取り組みがどこまで反映されているのかなと。

先ほどあった、例えば特別栽培米なんていうのは非常に環境農業に資するということの中で、新たな付加価値を生み出してやっていこうというようなところであると思う。

それ以外とかで例えばだが、県の産業振興計画の農業分野を見ると、IoTとかIoTとかIoTとかデジタルだとかITの力を借りて、もう少し変革を出していこうというような事業が多いような気がするが、どちらかという今までの延長の事業が多いのかなと。

先ほどの特別栽培米すごく新たな農業、新たな価値を生み出そうということだと思う。

その他とかで県の事業なりもっと活用して変革をもたらすような事業というのはどこかに出てくるのか。

(別府副委員長)

この農林業分野、水産業分野で、要は DX 化などをどんなふうにして、計画の中でどういうふうに取り組んでいこうかといったところを少し教えてということですね。

(江口委員)

なかなか人が減ってる中で、やはり高い価値を生み出すような経営に変えていかなければいけないという要請も一方であるのかなというところがある。

そういうところで、割と県がそういう方向に今走ってる中でどこまで取り入れられるというか、現状、デジタル化があるというのは。

(小松課長)

8 ページの 2 つ目の柱に、園芸用ハウス等リノベーション事業というのがある。これは環境制御技術 IoP とかを使った日射比例であったり炭酸ガス発生装置であったりそういうものを組み込んで、県のクラウドの SAWACHI (サワチ) というところにすべてのデータが収集されて、品目に対して最良の技術が何だったのかというデータを収集するものがあるが、そちらに集約されている。

その中身も毎年のように事業の内容は変わっている。ここには拡充というものは付いていないが、内容的には少しずつ補助事業メニューが変わっていきっている。

それを⑩にしようかどうか話し合いをしたが、軽微な変更で拡充というのはどうかというところでつけていない。

DX に関しては、結構農業の方は進んでいるんじゃないかなという風に感じている。

(江口委員)

私もそんなに農業に精通しているわけではないが、県の農業の事業とかいうのは割とそういうような変革を求めて人がやはり少なくなっている中で、変革をしていくという事業も多いと思う。

あまり計画にはないということだとは思いますが、ぜひそういう県の事業または国の事業などを活用するような形で少しそういう新しい価値を生み出す、変革というような要素を入れていただければなというところ。

あともうひとつ、先ほどの 10 人 10 人という中にはぜひ若い人の割合を高めて、担い手を育成するという視点を入れていただきたいと思う。

(小松課長)

相談件数は年間 30 人ぐらい来ているが、大体それほど年配の方はいないのではと思う。30 代くらいの若い方が相談には来ているので。担当が後ろにいるが 35 歳以下がほとんどだそうである。

(別府副委員長)

水産業分野の森さん、水産業分野における課題や計画の評価でも構わないがいかがか。

(森さん)

水揚げに関して5年度は圧倒的な不漁で全く水揚げ額が上がらなかったが、今年に関しては7月に特にシイラの方は大量にあがり、多分、過去10年で一番、単月で上がった水揚げになっている。天候に左右されるためこれをずっと続けていくのは難しいかもしれないが、できるだけ持続していきたいなというのと、真空包装機を取り入れたので、これからシイラを加工して真空パックの状態でも冷凍すると長持ちするので、香南市の飲食店さんの方にいろいろ提案できたらなとは思っている。

(別府副委員長)

ありがとうございます。

他には。全体の計画のところでも構いません。

(石丸委員)

先ほど水産業の中でやはり農業と一緒に自然の中で生きていかないといけない中で非常に環境に左右されるということで、去年、シイラが少なかったが、今年はかなり取れたと。その要因的なものはどういうふうな環境で違ったのかなと。非常に難しいと思うが。

あと全国的に水産業、漁師さんテレビでよくやっているのに、漁獲高がすごく減っているというふうな話も聞くので、高知県内の漁獲量というのは年々どんなふうになっていっているのかというご質問。

(森さん)

推測になるが、もともとシイラ7月8月は小さいサイズがよく取れていたが、去年はその小さいサイズもほとんど取れず、シイラは回遊魚なのでいろいろ回っているが、小さいのが取れなかった分、例えば生きていた小さいのが結構いてそれが大きくなったのがそのまま順調にあがったのかというのもあったりするし、3年周期で群れがどんどん回ってくる。例えば黒潮の土佐沖、例えばハワイの方、ヨーロッパの方とかに回っている周期みたいなものもあるみたいなので、その関係でよそが取れなかったんで今年回ってきた、今年はよそが多くとったんでこっちに回ってこなかったというのもあったりする。

正直わからないが、そういうことも関係はしてるかなと思う。

(石丸委員)

漁獲高は全体的にはどうか。

(森さん)

漁獲高自体は、これから上がるということは多分ないと思うが、海水温の状況によってシイラとかに関してはもう東北の方でも揚がってきたので、少しずつ知名度が上がってくるかなというので、それを昔から取っている香南市の手結の方で認知度、手結のシイラということで、ブランド力を付けられれば他のところと違った一面を出して、漁獲量は少ないが金額としては上げていければなと思っている。

(石丸委員)

もう1点、水産業も農業と一緒に燃料が非常に高騰している中で、燃料自体は業者が給油しているので普通の一般家庭と違って、燃料が若干安く買える部分があると思う。

そういう中でもやはり経費的なものがかかりかかってくるので大変な部分があると思うが、漁師さんの今の現状、今後若い者が継いでいってくれるという状況、後継者などは育っているか。

(森さん)

シラスバッチ漁の方はある程度丘の方で操業しているので経費は最初の新船ぐらいだが、シイラ漁に関してはシイラづけという竹をつけたりだとか、ちょっと沖の方まで行かないといけないので、経費は多分シラスよりはかかっている。

担い手に関しては、多分今回のこの新しい目標達成の部分もシラスの方だと思うがシイラの方ではなかなか厳しい状況があるので、これを何とか打破していきたいなと思う。

(別府副委員長)

漁業も多分魚の取り扱いというか、もう高知だけでなく全国、また海外との取り扱いみたいな中での勝負になってくる。価格高騰で燃料も上がってというと、要は効率的にできるだけ魚がいる所へどうやって行くか、そういうことの勝負になってくるのかなと。そういうところでデジタルとか高性能のレーダー入れたりとかということに多分なってくるのかなと。そういうことでよいか。

そういう部分を市としても支援していくということ。

(小松課長)

バッチ漁の方からもデジタル技術ということで、2隻同時に、今1隻のみデータ、魚探があって、それをその写真を写して、LINEで送ってそれでやりとりをしていると、そういう方法というか形をとっていたのが2隻同時に見れるので、無線でそのまま魚探の映像を見ながら動けるというシステムがあるらしいが、それを購入するようにしたいというような話はあったが、まだ単価そのものの値段がかなり高価なものということで導入までには至っていない状況。

今後もデジタルでできるだけ省コスト化するというところで進めていきたいとは思っている。

(別府副委員長)

ここで休憩を取らせていただく。

【10分休憩】

【再開】

(別府副委員長)

意見交換、質疑等については商業と工業の2分野の説明が終わった後にまとめて行う。

(小松課長)

農業水産課から少し訂正を。

特別栽培米の収量 8.7 俵と言ったが 9.3 俵。泉大津市へ 20 トンと言ったが 28 トンに訂正させていただく。

(別府副委員長)

今年は天気が良かったというのもあって、うまくいったということだと思う。

それでは商業分野について、萩野課長から説明をお願いします。

【商業分野】

- ・商工観光課 萩野課長より、商業分野における第 3 期の取り組み内容について、資料 3 を用いて説明。
- ・商業部会 福井部会長より部会で出た意見や補足の説明。

【工業分野】

- ・商工観光課 萩野課長より、工業分野における第 3 期の取り組み内容について、資料 3 を用いて説明。
- ・工業部会 岡本部会長より部会で出た意見や補足の説明。

(別府副委員長)

商工業分野について報告があったが、意見交換に移りたいと思う。

イシン株式会社の明石委員から本計画案に対するご意見、或いは首都圏企業の現状についてなどを紹介していただけたらと思う。

(明石委員)

首都圏でいうと、今ベンチャー、スタートアップ、IT。

うちの会社はそういうメディアをやっている会社だが、最近は少し冷え込んでいる。

ひところ 3 年ぐらい前か、かなり IT、スタートアップが注目を浴びていたが、少しバブルぎみだったのが反動があり、今皆さん新たな資金調達が少し滞っているというのと、そこに合わせるような形ではないが、一時期地方、地域に東京の IT、コロナもあり、IT の会社が拠点を構えるみたいな動きがあったが、そういうものも少し一段落しているかなという印象。

徳島の神山や宮崎の日南などが一時期結構脚光を浴びていたと思うが、そういうのが 1 回ちょっと一段落したなというところで、ただ遅まきながらじゃないが、ふるさと納税の企業版ふるさと納税というのがあるが、それを総務省が非常に積極的に押し進めようとしていて、なかなか企業側のメリットというのが、一般的な消費者のふるさと納税の場合だとわかりやすく返礼品がもらえるので皆さんふるさと納税をするが、企業版の場合はなかなか具体的なメリットが見えないというような形だったが、いろんな事例が出始めて、直接的短期的に企業側に何かメリットがあるような形になってはいけませんが、間接的中長期的には何かこう利

益に繋がるんじゃないかみたいなところでの企業版ふるさと納税が私の周りでも徐々に少しずつ使うようになって、自治体さんと東京のITの会社と組んで企業版ふるさと納税を活用して、自治体サービスの事業に取り組んだという事例がポツポツ出始めたなというような感触で、先ほどイノベーションという話があったが、我々、首都圏あと海外のスタートアップベンチャーとも非常に繋がっているしそういうメディアをやっているの、何かそういう部分で、労働力人口が減っているのに合わせて、業務の効率化などで何か接点やお手伝いできることがあれば、おっしゃっていただければ。

(別府副委員長)

少しベンチャー企業の方一段落してきている、或いはふるさと納税の企業版の具体例が始めているということについてご紹介いただいた。

そのことについて、ご意見はいかがか。

それでは商業、工業分野について、どちらからでも構わないので、ご意見、ご質問などあれば。

新規の事業で拡充と書いている部分で、ここが多分目玉にはなってくると思うが、その部分について江口委員いかがか。

未来人材奨学金返還助成事業、拡充で今回取り組もうとしているが、人口増とか担い手確保という部分でいかがか。

(江口委員)

どの分野においてもやはり生産年齢人口というのは減っている。

やはりこういうような産業振興で気になるのは、担い手不足というのはどの産業も同じだと思う。

こういうような形で奨学金を返還助成するというということで、特に若い世代、先ほどあったが、第5期高知県産業振興計画、地産外商、イノベーションということであるけれど、実は第5期の2年目における、多分まだ知事から私も直接聞いたわけではないが、いろいろな発言等を考えていると、やはり知事はどうしても若い人の雇用を増やしたいというのがあり、常にいろいろなところで発言をされている。

そういう意味ではこういうような、特に奨学金返還なので、大学生などがぜひこちらの方で働いて欲しいと言うようなところなのかなというのがある。

ただ、先ほどの話で、起業の話が少し出たので、ぜひこのどこかに創業支援というものがあるので、先ほどのイシンさんもスタートアップ企業の誘致というのをされているようなので、そういうものをぜひ若い、香南市さんもう少し思いっきり打ち出していただいてもいいのかなというところもある。

また県の話をして恐縮だが、県庁内、起こす業ではないが企業誘致の企業の方だが、県下全域で、どうのような企業の誘致をしたいかというニーズを全庁的に今取りまとめている状況。

12月の頭に、どこまで言っているかわからないが、庁内組織であるがそういうようないろいろな市町村のニーズという部分の、企業の部分の誘致に関して取りまとめをして、県全体としても市町村のニーズを聞きながら、そういうものをより強力にバックアップしていきこうというような庁内組織を立ち上げようとしている。

その中に、先ほどあったようにスタートアップ企業みたいなものが市町村のニーズにある

のであれば、どこをどうやって支援するかということは全然決まっていらないが、県としてもそういうものを支援していこうというような庁内組織を立ち上げようとしている。

スタートアップ企業だけではないが、例えば中山間の山奥の方にこういうような企業が欲しいな、商業でもいいが欲しいなというものがあれば、そういうものも支援していこうかなというようなことがある。

あと、例えばホテルがこの地域にないから欲しいなとか、今まで県は全く立ち入っていなかったが、そういうようなところにも手を入れていこうかなというような部分もある。

先ほどあったように非常に香南市、若い世代が集まるところではあると思うので、特に起業をされるような方々を呼び込むというような、特にこのような奨学金返還も含めて、若い人たちを呼び込む施策を入れていただいた方がいいのかなと思う。

(別府副委員長)

この奨学金の返還免除はまさにそういうふうな趣旨で、リターンを強化していくという形で、やはり大学や専門学校が地元にないのでどうしても県外に出てしまう。そこをいかにこどもに帰ってきてもらうかということで、今ここは拡充したいと思っているので。

先ほどの江口振興監の話でもスタートアップを考えているということだが、今の福井さんの話の中でも事業承継の補助金も中山間しか使えないという話もあったがスタートアップも同じスキームになるのか。

(江口委員)

まだ全然決まっていらないところだと思う。

個々の市町村でどういうふうなニーズがあるのかというのを調べて、例えば他市町村の話になるが、まずはシェアオフィスみたいなものを作って、そういうような小さいところの学生が起業できるような環境を作っているようなところに対しては、どういう形で入居をしてもらうか、どうやってマッチングしていくかというところを多分県と市がやっていく。そのお金をどうかするということまではまだ全然考えていないと思う。

(別府副委員長)

確かに香南市、特に野市周辺はやはり若い世帯、若い夫婦が働けるようなシェアオフィスとかがあれば。その辺が多分ニーズとしてつかんでいないので、県の方で動きがあるなら市の方でもまた調べていけばいいのかもしれない。

(福井委員)

少し話は変わるが最低賃金について、952 円になったということで、私も最近パートの方を募集するのに 952 円で来てくれるとはなかなか思えないので、時給 1,000 円という形で出したが、これは農業も水産業も皆そうだと思うが、その分の価格転嫁というのは商品に対してまだ十分できていないため、実際パートの人に 1000 円で働いてもらうとなると今までの利益を放出しないといけなかなと思いつつやっているが、そこの辺り補助があるなり他の農業などのパートの方などはどのような感じか。952 円もらわないかん。という人もいたが、なかなか難しいかなと思ったが。

(石丸委員)

最低賃金が952円ということで僕が関わっている山北の集出荷場、2億7000万円ぐらいの選果機を導入しており、これに16人の作業員さんが来てくれている。

その中で給料というのは、入ったばかりの人たち3人ぐらいが最低賃金ということだったが、やはり最低賃金を上回らないという問題が出てくるということで、一応1,000円にしている。あと5年10年勤められている方でうちの基準として順番に上げていくような体制をとっている。

工業製品とか、福井さんのお店などでは価格を上げれば価格に転嫁できるわけだが、農業商品というのはそういうわけにいかない。こちらが価格を指定しても、やはり買ってもらえるのは消費者なので高ければやはり買い控えになったりする。

あとはうちの方の担当の販売努力でその分を補っていくような体制をとらないとなかなか農業の販売する商品について、やはり価格転嫁、価格転嫁と言われるがなかなかそれができていない。

そういった意味でうちの方の販売努力で市場の要請にやはり応えられるような販売もしていかなければいけないし、それがまた市場の方から産地に対してそれぐらいの価格で販売できる、というふうな、うちの商品もかなり頑張っ出ていかないといけない部分があるので、そのところはやはり農業製品厳しい部分があるので、価格転嫁ができない分いろんな部分で新規の分をフォローしていけないといけないかなというふうに思っている。

(別府副委員長)

他の分野で、岡本委員いかがか。

(岡本委員)

なかなかここでは発信できることはないが、やはり我々の商品、工業製品も上がっておりますので、その上げた分をどこで吸収するかというのは業種業態によると思う。弊社の場合は経費削減に努めるなどしている。

(別府副委員長)

四銀の森委員さんいかがか。

(森委員)

金額的なところはあまり言えないが、機械を導入してどんどん人手がかからないようにしているが、やはりどうしても全体的には人が足りないのは事実であるので、事業カット、あとは仕事の内容、しっかりとどんなことに興味を持ってやっていくのか。金銭面にもつながっていくと思うので。

(別府副委員長)

森委員、話は変わるが事業承継、スタートアップ、起業の話があったが、その辺で香南市の動きというのはどうか。

(森委員)

私どもも高知県の商工会議所さんがされている業務引継支援センター等と連携して、事業承継をどうしていくか、継いでいくのか第三者にお渡ししていくのかといったところは、やはり企業数から見ると香南市の場合それほど会社の数は多くはないと思うが、それに対してやっていくことに対しての引き継ぎの件数は、月に1、2件はあると思う。始めた頃はもっとあったのではないかとと思うが、今少し落ち着いたような感じにはなっている。

銀行の者は、そういったお客さんの話を情報共有して、紹介などを引き継ぎ支援センター等と一緒に協力してやっていただいているというようなところはあると思う。

起業の話も、やはり独立して会社を立ち上げたいという方も、それほど多くはないが、ぽつぽつお話は聞くので、そういったところの部分では側面から支援をして起業できるような支援体制の中ではやらせていただいている。

(別府副委員長)

他にいかがか。それでは次の分野に移りたいと思う。

観光分野について、萩野課長の方から説明をお願いします。

【観光分野】

- ・商工観光課 萩野課長より、観光分野における第3期の取り組み内容について、資料3を用いて説明。

(別府副委員長)

観光分野について報告があったが、意見交換に移りたいと思う。

ご意見、ご質問があれば。

来年、今年度末から物部川エリア博「ものべすと」が始まるということでこの観光博の取り組みの準備状況など構わない範囲で、小笠原委員の方から紹介していただければと思う。

(小笠原委員)

今年度末、3月31日が「あんぱん」の放送開始だろうということを想定し、その前々日に香美市、30日に南国、香南で博覧会のオープニングイベントをするということで進んでいる。

それに関連づけてWEBページの作成や観光パンフレットの作成、何より市民のみなさんが盛り上がっていく機運醸成のために週末などにイベント等を開催し、市民のみなさんに参加していただくような事業を構えて機運醸成を図っていかうとしている。

来年についてはまだまだこれからというところになるが、引き続きドラマを盛り上げてそれによって県内外からお客様に来ていただくという取り組みをする、というところの事業を行っているが、ドラマが終わってからも続けてお客さんが来てくれるような取り組みになるか、というところなのでそこを目指してやっていっているところ。

それと今日の会を聞いてうらやましいなあと思っていたのが、目標のところに雇用者数や、新規事業者数というところがあり、観光分野はそういうところが入ってこないかなと

思いながら聞いていた。

商業関係が増えるということはそのままきっと観光分野にも携わってくださるのかなと思うが、この博覧会を通してもっと観光客にもこの香南市に来てもらわないといけないというところに、ぜひ新規観光に関する商業者が増える、ここで働きたいと思ってくれる人が増えるとかそういう目標があったらいいなと思ったところ。

なぜこんなこと言うのかというのが、資料3の3ページの子どもたちに聞いたアンケートのところで「香南市は魅力的な働く場所があると思いますか」が、41%の人がはいと答えていて、「希望する仕事は香南市でできますか」というところが26.7%の子がはいと答えている、すごい数字なんじゃないかなと思った。

高知市ではなく、香南市だけでははいと答えた人が両方これだけいるということはすごく魅力を感じているのかなと。どんな仕事に興味を持ってどんな仕事に就きたいのかっていうところも知りたいなと思ったところ。

そういった子どもたちが今回のこの博覧会を覚えていて未来の観光を担う人材になったらいいなと思った。

(別府副委員長)

西内課長、その辺いかがか。

(西内課長)

企画財政課の西内です。

今総合戦略の方も第3期策定の真っ最中であるが、先ほどお話があったのは、令和2年から6年度の5か年の中で、毎年小学6年生、中学3年生、18歳の子にアンケートを実施しており、継続して経年の変化を見ている。

「香南市は魅力的な働く場所はあると思いますか」、「あなたの希望する仕事は香南市でできますか」ということは毎回聞いていると思う。

数字は覚えていないが、自分の記憶では左側の「魅力的な働く場所はあると思いますか」に対していつも「あなたが香南市で働きたいこと、仕事、夢は香南市で実現できますか」というのは「魅力的な働く場所があると思いますか」に比べて割合としてはどうしても小さくなってしまふ。

自分が本当にやりたいことは香南市でできるかという、やはりそこは客観的に見たら、結構いい仕事があるんじゃないかと思ってくれても「あなたがしたい仕事はありますか、夢は叶いますか」ということはどうしても割合としては小さくなる、また経年でアンケート結果を追っていくと、「夢や希望する仕事は香南市でできますか」という割合は若干高くなっていった記憶が残っている。確か。

ということは、一応産業振興計画と連携して、総合戦略のほうで香南市で働いて香南市で暮らして、というところを目指して取り組んできた成果としては、一定出ているのかなというのは、10年間続けてきて今年度が最終の5年目だが5年間の経過を追ってきていると、その割合としては少しずつだが高まっていたような記憶があり、一定、成果としては出ているんじゃないかなというところはある。

あとは仕事が香南市であれば一番いいが、なくても、他の所で働きに行くにしても住むのは香南市に住みたいという風な子供たち、市民を将来もずっと繋ぎとめておけるようなまちづくりを続けていかなければいけないと、現在の第3期策定委員会の取り組みの中ですごく

感じているし、委員のみなさんからそういったお声をいただいているので、財政状況が苦しい中ではあるが、できる限りそういったまちづくりにつながるような施策を持続的に続けていきたいなと思っている。

（別府副委員長）

今の小笠原委員の話で雇用者数や働きたい人を増やすということだが、香南市は観光、ストレートに宿泊など、観光に直接携わる方はあまり多くないのかなと思っており、今回のドラマの方と直接のやなせ先生ゆかりの場所ではないが、南国市、香美市に行って、そのお客さんはおそらく香南市の動物園とかヤ・シイパークとかに来るはずなので、そのお客さんをしっかり地域の経済効果に結びつけるというのが重要で、それでいくとやはり観光だけじゃなく、福井さんの商業部会や、他の部会のメンバーでもしっかりお金を落としてもらい、土産物を作ったり、飲食のお店と一緒に観光マップで紹介したりということが大事になってくるのかなと思っている。その辺福井さん、動きとかはあったりするのか。観光客が来る、それに向けてお土産、パッケージだけでもいいので、やはりそういうものを買ってもらえるんじゃないかとか。

（福井委員）

直接的に私たちのような小さなお店では新商品といっても難しいので考えていないが、今観光協会の方とも協力し合って香南市からこんなおいしいものを売ってるところがあるよとか、こんなお土産にしたらどうですかといったことを示せるホームページなりはいるのかなと思いながら聞いていた。森尾さん、よろしく願いたい。

（森尾委員）

お土産のホームページというのはなかなか。まずは物部の博覧会のホームページをDMOさんのところで作成されると思うので、そこにこのエリアの観光地や食、ポイントなどは集約されると思う。

そこからいかにこのエリアに足を運んでいただき、とどまっていただき、いろんなところをめぐってご飯を食べてもらったり、おみやげを買ってもらったりというようなところで、私たちのこの香南市観光協会ホームページなり情報発信、この柱の1個目の魅力ある情報発信というところに繋がっていくんじゃないかなと思う。

高速道路も繋がるので、このエリアに来ていただいた方を東の方に素通りされないように、なるべくこのエリアでとどまっていただけるような魅力的な発信の中にも、その地域の食やお土産、小さな店舗の魅力ある商品なども発信ができるといいかなというふうに思っている。

今博覧会に向けていろんな取り組みが準備されているが、その準備段階を私たち観光協会として、香南市の事業所や店舗をつなぐような努力を一生懸命今しているところなので、参加して下さった、一緒にあんばんを盛り上げようと思ってくださる事業所さんに、参加してよかったと、お客さんも来てくれたし今後も楽しみだなというふうに思っているような取り組みと一緒にDMOさんとも他の2市さんともやっていきたいなと思っている。

（別府副委員長）

小笠原さん、お土産物づくりなどは他の市町村では進んでいるのか。自分のイメージでは、既存商品でも少しパッケージを変えるなどしてやってみるとか。

(小笠原委員)

浜幸さんが商品を作られて早く販売されている。その他大きなところで言うとスイーツさんも南国市から香美市に移転されて、移転したタイミングでこういったあんぱんがきたので、商品開発に取り組まれていると聞いている。

南国市も香南市と同じように、お土産、商品開発の補助金などがあるので、そこに名乗りをあげている所が、数事業者あったと思う。

(別府副委員長)

既存の物にシールを貼ったりパッケージだけ変えたりというものはあまりない？

(小笠原委員)

「ものべすと」ロゴができており、申請していただけたらできるような形にはなっている。

(別府副委員長)

ぜひそういうものも活用していただけたらということをお願いしたい。

(石丸委員)

宿泊施設のことだが、山北管内でも年間3回ぐらい県外の市場の方に来てもらうが、平日の火曜日、水曜日が休日ということで火曜日にこちらの方へ来てくれる機会が多いが、かなり前から予約をしているのに、2回ぐらいホテルがいっぱいで宿泊できないということで、他で泊まった経緯もあった。香南市の中であまり大きい宿泊施設というのはないと思う。そういうところで観光の方での影響はないのか。

(小笠原委員)

今回このドラマが来るということで、観光客がある一定増えるということは想定しており、それを思うと、香南市そして隣の南国市、香美市だけでは足りないだろう、どうしても高知市に流れるだろうということはある程度想定している。それがどうこうではなく、相互協力で高知市にしかホテルはないが観光には、のいち動物公園やアクランドには高知市から来る術を作っていくというのが私たちの仕事ではないかと思っている。

(別府副委員長)

宿泊施設、香南市では多くないという印象はあるので、なかなかホテル誘致とかは難しいと思うので公民館や空き家とか、そういうものを少し改修して一棟貸しなど、農家体験のような作業体験なども結構流行ったりしており、そういうものも今後研究できればと思う。

(江口委員)

私も実は10数年前観光をやっており、彼の引き継ぎで同じ課に行ったが、12ページにあるように観光の取り組み、あんぱんもあるので、継続的に受け入れ環境の強化というところに力入れて欲しいなというところが1つある。

私は10年前に国際観光担当であり、その頃は東日本大震災の後で観光客は少なかった状況。そんな中で、すごく取り組みを進めてきてやってきたというところがあるが、この12ページの表のところに330万人観光というのがあるが、ぜひインバウンドの指標を入れてい

ただきたいというのがある。

これものべすとの実行委員会でも委員さんからも今の話が出ていたと思うが、先ほどもあったように宿泊施設がないというのは数字が取りにくいのかなと。

県全体での目標も宿泊延べ人数のような、官公庁が出している指標、数が少ない中で、じゃあこのインバウンドの指標をどうやって取るんだと言われるとなかなか私も答えをしにくい、私は幡多の方の広域の観光組織にいて、その時に私がやったのはまずはやはり宿泊施設の外国人の宿泊者数というのをエリアの中でとった。もう一つやったのが、幡多広域観光協議会というのは大体100ぐらい観光の体験事業者、四万十川遊覧船などがあり、その商品を幡多広域観光協議会が扱っていたということがあり、そこに来られたお客さんの外国人の数を全部取ってください。逐一取れなくても大体の推計で出してくださいということで、幡多地域で来られた外国人がどのような体験施設にどれぐらいやって来たのかというのを全体集計してそれを経年変化で見ることで、どれぐらいインバウンドのお客さんが来てるかということもやっている。

ぜひその数字、インバウンドの指標を目標に掲げてチャレンジしていただきたいなと。

もう一つ言うとインバウンド、ここの受け入れ環境の中に全然書かれていないがどの程度進んでいるのかなというのが一つ。多分そういう指標がないということであまり進んでいないのかすごく進んでいるのか。

(萩野課長)

インバウンドの対応というところていくと、DMOさんにもご協力をいただきながら、外国人受入研修という形で従業員の方を初めとした市内の事業者さん向けに、多言語やおもてなしのマナーなど、そういう形で研修などの参加には行っていただくような取り組みは進めている。

12ページにも記載をしている観光客受入環境の整備事業という、こちらの分についてはまだ制度設計途中ではあるが、外国人観光客、当然博覧会あんぱん関連のお客様も含めて、少しでもお客様が来ていただける機会が多くなると、そういうところで、少しでもおもてなしができるように、例えば会社のホームページを多言語化するために補助金を使えるようにしたり、多言語用のパンフレット、メニューなど、また外国人に限らず、当然ファミリー層、子供さん連れのお客様も多くおいでいただけるということにも繋がるかと思うので、例えばお子様が来ていただいてもすぐ対応ができるような子供用の椅子、授乳スペースなどといったところも、こちらの補助金で活用していただいて、いろんな方が来ていただいても受け入れ可能とするための補助金として使っていただけたらなと思い、制度設計をしているところである。

インバウンドの指標というのは現時点では数字は取りきれてないところがあり、過去には道の駅で期間的にお聞きしたこともあったが、振興監がおっしゃる通り、当然これからは入込客の割合でインバウンドの方も多くなってくると思うので、そこはいろんな観光施設の方と話ししながら、指標として入れるかどうかというのは検討していきたいと思う。

(別府副委員長)

絵金蔵などの外国人の数字は押さえているか。台湾のチャーター便などもあり増えていると思うが。

(萩野課長)

増えている。タイガーエア台湾とクルーズ船、あと個別に外国人の方が結構来ている。絵金蔵は人気があるようで外国人の方が前よりは多くなったというのは聞いているので、ツアーの分は恐らく数として押さえられると思うが、個別の分までカウントしているかというところは不明なので、そこはまた合わせて聞くようにしたい。

(別府副委員長)

絵金蔵など主要な観光施設の多言語化、展示の解析などは基本的には対応できていると。

(江口委員)

私が行ったときは英語と中国語と韓国語はやりましょうというのがあったと思う。

(小笠原委員)

絵金蔵はできている。外国人の方も数字では把握されている。ホテルなども予約状況でおそらくわかると思うので依頼をかければできる。

(江口委員)

少なくとも有料施設のところは推計でも取るような依頼をして、やはり経年で見ないとどれくらい増えているのかというのがわからないので。ここが1ついいチャンスなのかなというところはあると思う。

(別府副委員長)

本当にチャンスなので今回。朝の連続テレビ小説の放送というのはチャンスだと思うのでぜひ観光分野だけでなく他分野と連携してやっていければいいなと思っている。

(別府副委員長)

最後に、いただいた色々なご意見、イノベーションなどいろんな議論が出てきたと思う。

議事②だが、第三期産業振興計画はまだ現時点の案ということで、本日いただいたご意見をさらにまた部会の方にお伝えし、さらに協議を重ねていただき、計画をよりよいものにしていきたいと思っている。

それでは以上で進行の方を終わらせていただき事務局の方へお返しをさせていただく。

(事務局)

事務局より令和6年度のスケジュールについて説明（参考資料1）

◆ 閉会挨拶

(濱田市長)

長時間にわたって貴重なご意見、そしてまた様々な議論をいただき感謝申し上げます。

本当に香南市のことを考え、様々な分野で活躍してくださっている皆様のご意見が毎回大切だということを改めて感じたところである。

やはり人口減少の中でいかに香南市を持続可能なまちとして続けていくのか、どのように人を確保する、そしてそのためには何をすれば魅力的な市であり、また若者が住み続けられるのか。新しい企業を呼ぶのもよし、そしてまた私明日も国に出張に行きますし、先週もその前も、いろんなところに足しげく通って行くと、デジタルが幾ら進んでも、人と人、会って話すこと、その中で得られること、その中で生まれる絆であり信用というものをすごく感じておるところ。

そういったことを考えると、本当に人を大切にし、そしてまた、農業、工業、商業、高知県の中でも恵まれた環境の中で、そのバランスをとりながら、地域、地域、そしてまた産業でしっかりと横串を通して前に進んでいく方法というものの、この産業振興計画がまさに中心としてあるんじゃないかと改めて感じたところである。

年を跨いでまた来年に向けて、今日のご意見もしっかりと反映できるように、商工観光課、そしてここに集まったそれぞれの課がしっかりと取り組んでいきたいと思うので、引き続きのご協力をお願い申し上げ、私からのご挨拶とさせていただきます。

(事務局)

以上をもって令和6年度第2回香南市産業振興計画策定委員会を終了する。

以上